

環境関係用語の説明

(あ)

ISO14001

ISO（国際標準化機構の略。スイスに本部を置く非政府組織）が定めた、地球環境の保全に関する環境マネジメントシステムの国際規格。ISO14001の認証は、環境マネジメントシステムを経営システムの中に取り入れていることを意味し、環境に配慮した経営を自主的に行っている証明になる。

赤潮

プランクトンの異常増殖により、海水が赤褐色を呈する現象。一時的にしろ溶存酸素が欠乏するなどして魚貝類が死滅し、漁業被害を伴うことがある。

悪臭物質

特有の臭いをもつ化合物は40万にも達するといわれるが、悪臭を発する物質を化学的にみると窒素や硫黄を含む化合物のほか低級脂肪酸などがある。悪臭防止法では、現在アンモニア、メチルメルカプタン、硫化水素、アセトアルデヒドなど22物質を悪臭物質として定めている。22物質のうち窒素を含む化合物は2物質、硫黄を含む化合物は4物質、窒素・硫黄を含まないものは16物質となっている。

アスベスト

クリソタイルなど6種類の繊維状鉱物の総称。耐熱性、耐摩耗性、断熱性、防音性等の性質があるため各種建築資材や自動車のブレーキライニング等に幅広く使用されてきた。近年、発がん性など健康への影響が懸念され、製造や使用が規制されている。

(い)

硫黄酸化物 (SOx)

硫黄と酸素の化合物。このうち二酸化硫黄 (SO₂: 亜硫酸ガス) は、大気汚染物質として早くから問題視されてきた。重油等の硫黄分を含む燃料が燃えるときなどに発生する。刺激性が強く、呼吸機能に影響を及ぼす。

一酸化二窒素 (亜酸化窒素)

常温常圧では無色の気体。麻酔作用があり笑気とも呼ばれる。二酸化炭素、メタン、クロロフルオロカーボン (CFC: chlorofluorocarbon、狭義のフロン) などとともに代表的な温室効果ガスの一つである。温室効果の強さは二酸化炭素を1とすると一酸化二窒素では約300倍である。

一酸化炭素 (CO)

炭素化合物の不完全燃焼により生成する、無臭の極めて有毒な気体。人体に入ると血液中のヘモグロビンと結合して酸素の供給を阻害し、酸素欠乏状態を引き起こす。

一般廃棄物

家庭から生じた廃棄物と、事業活動に伴って生じた廃棄物のうち産業廃棄物以外のもの (事務所・商店等から生じた紙ごみ、飲食店から生じた生ごみなど) をいう。

(え)

ESCO事業

Energy Service Companyの略。ビルや工場の省エネルギー改善に必要な包括的なサービス (省エネルギー診断・設備機器等の整備・省エネルギー効果の検証・設備機器等の維持管理) を提供する事業で、必